

祝 辞

津軽を望む海峡の風景は少しずつ青さを増し、蝦夷地の山々にも桜の息吹が感じられる時節となりました。

伊能忠敬翁没後二百年の記念すべき年の今日、多くの皆様のご臨席をいただき、往時を偲ぶ忠敬翁の銅像を配し、記念公園竣工式典が挙行されますことを心からお祝い申し上げます。

今、この地でこそ、二百有余年の時空を超えて、寛政十二年五月十九日、津軽の地から、遠く蝦夷地の山々を望み、心もとない和船上で胸を躍らせ、大きな期待と不安の中、蝦夷の大地に渾身の一步を踏みしめた感動の光景に思いを馳せることができます。

香取市佐原の忠敬翁記念館にある伊能図には、「吉岡四十一度三十分」、「江戸から二百十七里二

十六丁」と、蝦夷地測量を目指した吉岡上陸の痕跡が記されておりました。

踏破距離三万五千キロ、歩数四千万歩。

十七年間の長きにわたり、日本中を愚直に二歩一間の歩幅を守り、歩き続け、「大日本沿海輿地全図」を作り上げた功績は多大であり、近代日本の誕生・発展に大きな影響を与えてきました。

想像を絶する波乱万丈の人生を歩んだ忠敬翁には、「夢追うのに、早い遅いはない。追うかどうかだ。」「人間は夢を持ち、前へ歩き続ける限り、余生はいらない。」「歩け、歩け。続ける事の大切さ。」等、現代にも通じる多くの遺訓があります。

この機会にあらためて、忠敬翁の遺徳を振り返り、町づくりへ連動する好機となるよう歩みを進めなければとの思いを新たに致しております。

結びになりますが、

町史研究会有志の努力により、史実が解き明かされ、忠敬翁と当町の係りが明確となり、記念銅像建立を願う篤志の思いが計画を実現させ、今日の日を迎えることができました。この間、ご教示をいただきました忠敬翁ゆかりの皆様には敬意の気持ちを込めて心から厚く御礼を申し上げます。

この後、周辺環境整備、史実の紹介、幅広い事業と連動した有効活用等、まだ課題も多くあります、関係者の皆様には、引き続き、ご協力いただきますようお願い申し述べ、本日のご出席に心から深く感謝を申し上げお祝いの言葉と致します。

平成三十年四月二十七日

福島町議会

議長 溝部 幸基